

東北福祉大学農業実習

昔ながらの手作業で稲刈りを体験 収穫の秋



10月4日(土)に東北福祉大学の学生15名が参加し、稲刈り体験が行われました。横川地区の田んぼをお借りして、学生が春に田植えをして夏に草取りを行い育ててきた稲がいよいよ収穫を迎えました。当日は天気にも恵まれ、暖かく、青空の下での作業となりました。



機械を使わず手作業で稲刈りを行い、鎌の使い方や刈り取った稲の縛り方を地元農家の方に教わっていました。特に稲を縛る作業は何度農家の方のお手本を見ても、なかなかうまくいかず学生は悪戦苦闘したようですが、農家の方々との親交を深めながら稲刈りの作業を楽しんでいました。

収穫された新米は、東北福祉大学のキャンパス内の食堂などで提供される予定です。



源流米

やまのしずく 稲刈り作業

源流米ネットワーク × サッポロビール仙台工場

平成26年9月27日(土)、湯原田中地区のほ場で、サッポロビール仙台工場の職員とその家族による稲刈りが行われました。

この活動は、岩沼市にあるビール工場で製造されるビールの原料となる水に、七ヶ宿ダムの飲料水を使用していることをきっかけに始まったもので、今年で5年目を迎えました。

源流米ネットワークの梅津賢一さんと高橋美幸さんの指導の下、5月25日に田植え、7月5日に田の草取り、そして今回の稲刈りと、今年も3回にわたる農作業が行われました。

澄み切った秋空のもと、子供たち5名を含む総勢20名の参加者は、コンバインに乗ったり、稲わらを束ねたり、トラックに積まれる玄米をのぞき込んだり、忙しくも楽しい作業を満喫していました。

終了後は、湯原コミュニティセンターに移動し、「やまのしずく」と「ゆきむすび」の新米を食べ比べながら、芋煮会を開催しました。

「七ヶ宿のおいしい水」がつかないだサッポロビール仙台工場と七ヶ宿町。こうして「七ヶ宿のおいしい水」が都市部と中山間地の交流をより一層深めてくれています。



秋空のもと記念撮影



子どもたちは大喜び



稲わらもかなりの本数になります